

『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術：2 貴方の考える未来社会像

# 13 Shared Baby and Your Arm : 3人以上の複数の親を持つ子供をどのように 共同育児するのか. そこにどのようなテクノ ロジーが必要とされ開発され使用されるのか? ☆1

応  
般

長谷川愛 | 東京大学 大学院工学系研究科 川原研究室

## 侑河家の誕生

「恵さんがなんか、子供欲しいんだって」子供が寝静まった夫婦の晩酌タイムに僕は思い切って切り出した。

「へえ」妻の渚はいつもの雑談だと流している。

「で、僕のほかに共通して仲の良い人2人に声をかけたらいいんだ、親の1人になって、って」

「それって、ゴッドファーザーとして？」渚はおかずにひじきを咀嚼しながら聞く。

「ではなく、生殖系のテクノロジーの会社 Shared Baby っていうサービスの、2人じゃなくて、3人から6人ぐらいの親で一人の子供を産めるやつ」

「ああ！ あの！」彼女の反応が若干鋭くなってきた。

「どうやら社長と知り合いでパイロット版として格安モニタ価格でできるらしくて」

「それって、安全なの？」鋭い切り返しから仕事モードの彼女が透けて見える。

「まあ、もう認可も下りてるし、リサーチも十分されていて大丈夫だと思うよ？ 僕も一通り確認したし」

「ふーん？ ……で、ほかの親たちは誰よ？」

僕はこの質問に一瞬罰の悪そうな顔をした。「えーとあとはマイさんと、有華さん」そう、僕以外は3人ともよく知る美しく賢く面白い女友達で、そう

まるでハーレムだ。

「うわっ、きもっ！」

その妻の反応に僕は有効で的確な反論ができないので、苦笑いをしながら安心と利益に関するトピックに話をそらすことにした。

「で、僕もう、智ちゃんいるし君もいるから、断るべきかな？と思うんだけど、ただ、智ちゃんに弟妹ができるチャンスでもあるんで、一応、2人に聞いてから決めようかと」まずは聞く耳を持ってもらうべくさらに続ける。

「まあ、親の1人になるにあたって、恵さんからは渚さんにはご迷惑をおかけしないように、親間での恋愛なし等の誓約書と、万が一恋愛発生したときの重めの罰則規定も書いておくとのことです。万が一のためね！ 万が一！ ないけど！」

「……そうねえ、まあ私も自分で産まないのにチーちゃんに弟妹ができるってことは一考に値するわねえ。というか血縁距離的には従兄弟ぐらいなのかしら？ 姪ぐらいになるのかしら？」

僕にはこの妻との間に7歳になる智という娘がいる。もう1人子供を持つべきか色々話していたのだが、いかんせんあと数年は妻の仕事が忙しすぎるのだ。僕も自分が出産できる肉体だったとしても考え込んでしまうだろう。仕事を持ちながら出産なんて僕にはできる気がしない。確かに自分が少しかかわるだけで、ひとり娘の智に弟妹ができるのは僕たち

☆1 本稿の著作権は著者に帰属します。

にとって大変なメリットかもしれない。この場合渚の遺伝情報は入らないけれども。

「渚も親メンバに含めることをちょっと考えたのだけど、恵さんとしては夫婦が混ざると政治的になり権力構造が生じるのでできれば避けたい、とのことで僕も了承したんだ」

「まあ、そうかもねー」渚はやや不服そうだが合理的かつ理知的な人なので大丈夫だろう。

「僕はまあ智ちゃんの弟妹として育てたいんだけど、そうなると僕も4分の一だけどその新しい子の育児にかかわることになるけど、いいかな？」

「智に対する時間が削られないのなら問題ないわ。あと私もあなたの妻として、智の母として彼らと交流を持ってもいいのよね？」忙しい妻は割とドライだった。智との時間は削らないとなると、仕事か趣味か、妻といる時間を削られることになるのだが、それを指摘すると「あなた次第よ」とのことで、この発言が意味するところは趣味と仕事の時間を削れ、だと理解した。

子供の名前をどうするか決めるときに、まず苗字を決めなければならないことに気がつくのが意外と遅かった。男親の苗字をつけるというのは3人の女性からの反発もあるし、僕ももちろん公平でないことは嫌だ。結果僕らは大慌て新しい苗字を決めることにした。皆の名前から1文字ずつとり、大沢マイからは「イ」をとり、これが「にんべん」になり、角田有華からは「有」を。この2つで「侑」ができる。僕・ミンス・チュイからは「ミ」を取り、これが「さんずい」になり、瀬川恵からは「川（かわ）」を、組み合わせで「河」になり、「侑河（ゆうが）」という苗字がここに誕生した。親それぞれと違う苗字だが、この苗字の成り立ちに感動し、すでに侑河家に愛着を持ってしまった。

「長男は侑河光（ゆうがこう）という名前に決定しましたー！」ここに侑河家の二十数年に渡る歴史が開幕した。

## Your Arm

「私、本当に申し訳ないんだけど、海外転勤になっちゃったのー！ どうしよう？」と有華が言った。

光が生まれて3カ月、早速問題の発生だ。

マイと私が光と一緒に住んでいるが、2人とも仕事をしている。マイは児童精神科医で、私、瀬川恵はこれでも新進気鋭の現代美術家だ。編集者の有華と教授のミンスは通いで育児にかかわるが、通いといえども1人の親がいなくなるのは子育て的にもスケジュールが厳しくなってくる。さまざまな懸念と提案があがっては消えた。煮詰まってきた親会議をぶった切るようにミンスが切り出した。

「じゃあ、あのプロダクトを買うのはどうだろう？ 遠隔腕のYour Arm！ 工業用ロボットアームだったのが家庭用になって人間の腕みたいになったやつが最近安くなって、さらに自分の腕そっくりにカスタマイズできるやつ！」

そうねじゃあ、とマイが続けた。「お得な2本セットで買って、1本は有華の腕にペアリングしてベビーベッドにつけて、もう1本は光の腕とペアリングして有華のベッドとか机につけておくとか？」  
「そうしたら私、時差があるから夜泣き中の光をあやしてあげられるかも！」しおらしく聞いていた有華が満面の笑みで言った。

Your ArmはVRモードにするとヘッドセット内蔵カメラが手の動きを取得して遠くのYour Armを微細に動かすことができる。「遠隔でオムツも替えられたら便利じゃない？」という意見から腕は2本になり、誰の腕の外見にカスタマイズするかで揉めた挙句「4本手があったら普通できないことが色々できるかもね！」というミンスの言葉が私たちの好奇心を刺激し、結果それぞれの腕を模倣した4本の腕がベビーベッドから生えるという事態になった。

オムツを替えるときは、もう片方の手を誰かから一時的にペアリング権を借りる。それだけでなく、それぞれの腕の持ち主の体温と心音を反映するし、子供の枕からは子供の体温と呼吸と心音がモニタされてアプリで見ること、ログを取ることもできる。使い方は人それぞれだが遠距離恋愛をしているカップルと風俗店、介護業界等でよく使われているらしい。ただ万が一腕が誤作動したらどうだろうか。さらに怖いのはハッキングされたら見知らぬ誰かをベビーベッドに招いていることになる。そう、子供を殺すことだってできる。このリスクをどのように扱うか。危ないという意見が出たが、本来の万が一のリスク、たとえばうつ伏せで寝てしまい死んでしまうという事故を遠隔から仰向けに寝返らせることによって防ぐことができる、そのメリットとハッキングで子供を殺される、その確率を天秤にかけたところ、赤子の身体モニタとクロスさせたシステムを組み、さらにネットのセキュリティをあげて様子を見た方がよいのではないか、という結論に達した。

光の成長に伴い、親の4本の腕のうち2本の腕はダイニングテーブルの光の椅子の両脇に、残り1本はベッド、残りの1本はトイレにおいてはどうか、との提案がなされたが、皆自分の腕をトイレ用にしたくないし、カメラも必要なのでトイレ設置は却下された。そのかわり歯磨きや洗面を手伝う手が必要だよ、とのことで洗面所に1本設置となった。もはやそれぞれの腕にその時々必要と都合に合わせて、誰の腕とかもなく、家族だったら誰でも誰の腕でも使えるようにした。とはいえ、基本的には自分の腕にログインするのだが。

そうして、光にとっては遠隔の腕が親の数だけあるのが普通になり、3歳になったとき「コウくんももっと腕がほしいの！ みんなのお部屋に1本ずつコウくんの腕も置いて！」というなんとも愛らしい懇願に光の腕のペアリング先は有華の単身赴任先バ

ルセロナの自宅にある1本から親それぞれに1本ずつで計4本になった。光と一緒に住んでいるマイと私は家に置いても仕方ないので、仕事場に腕を置くことにした。とはいえ小さな子供にはVRを長時間遊ばせてはいけないので、光がその遠隔地の腕にログインできるのは毎日1人につき5分ということになっている。

私は仕事場での残業時、光の遠隔腕を on しておき腕の動きを眺めて今何をしているのか推測するのが好きだった。今は夕方だからごはんをスプーンで食べているんだなあ、と分かる動きを腕はするのだ。こちらの遠隔腕は食器やスプーンを持ってはいないけれども、腕の動きだけでなんとも優雅に雄弁に生活や感情が物語られるのだ。

「あのね、コウくんのね、有華ちゃんちにある、コウくんの腕がうごかないんだよ」

光のたどたどしい抗議に私が調べてみると確かに有華の腕にログインできない、どうやらほかの人が使用している最中のような。そういえば先日有華に彼氏ができたと言っていたな、バルセロナは今深夜だ。もしかしたら彼女は Your Arm の“大人の使い方”をしているのかもしれない。とはいえ光の腕からデータを取っているのも光の外見の愛らしい小さな腕でそういうことをするのはどうだろうか？と思うものの、プライバシーよね、と思いつくむことにした。適切な距離感が人間関係の肝だ。

有華も帰国し親の人数も4人に戻り子育てに慣れたと油断していたそんな時期、光6歳の誕生日に事件は起きた。ゲームで負け、不貞腐れて壁に玩具を投げた光を私が叱ったのだ。

「恵ママきらい。でてって！ マイママと有華ちゃんは好きだけど！ 恵ママヤダ——！」そう言いながら私に物を投げ始めた。仕事のスケジュールをやりくりし、光とマイと一緒に住み地道な子育てをし

ていた私は「子供の言うことだからきっと本意は別にあるのよ」と隣で慰めるマイの言葉を必死に聞き入れようとしたものの、脛に当たった玩具の痛みとともに暗い感情の波に飲み込まれていくのを止められなかった。

自分が子供のころに母親に言った酷い言葉がフラッシュバックした。8歳だっただろうか、小学校の授業参観でクラスメイトや彼らの親の目の前で作文を発表したとき、母親を「怖い鬼婆」と言ったことを。今考えても私はそれほど母親に怒っても嫌ってもいなかった、ただ窮屈なだけだった。そう、子供は人がどれだけ傷つくのか加減を知らない。それだけなら私も理解して受け流せただろうが、現在と過去は違う。当時は母親というものは特定の1人で、代わりがない故に、どれだけ喧嘩しようとも、親子は親子で絶対に不変のものであった。一方光には母が3人もいる。そのとき私は心の底ですずっと恐れていたことがついに実現してしまったのだと悟った。そう、複数いれば比較される。親と子といえども別の人間で、私がお腹を痛めたといえども4分の一しか血が繋がっていない。それを選んだのは私だ。尊敬できる素敵な友人たちを選んだのも私だ。彼らはキラキラしていて、私も必死で仕事を頑張っていたものの、いつも心の奥底の劣等感は消えなかった。劣等感があったからこそ、自分の血を半分も受け継がせたくなくて、でも無条件で愛して良い権利を持つ、かろうじて血の繋がった子供を、その尊敬する友人たちと作ったのだ。私は落ちていく気分を止めることもとどめることもできずに、ひたすら自分の後悔と弱さに翻弄されていった。もっと自分に光が似ていたら許せただろうか？ 愛せただろうか？ いや、そんなことはない、ただ私が自分以外の人間の面倒を見る許容のない人間ただただだけだ。

そして私は出張と称して家出した。その数日でさらに本格的にこの家族と縁を切る手筈も整えた。も

ちろん角が立たないように急遽ロンドンにて大規模な展示が始まるという理由をでっち上げて私は海外に逃げた。彼らは本当に良い人間たちで突然親をやめようとした無責任な私を許し宥めて再度家族の輪に入れようとしてくれたけど、結局私は私が思うほど光を愛せなかった。その現実の前に私はお金を送るだけの人になった。愛せない？ いや光を愛していた、愛しすぎていたからこそ、自分のことを好きになってくれない光に焦れたのだ。誰だったろうか、恋愛は親になるための練習だって。愛しすぎるからこそ、「適切な距離を保つ理性」を持たなければいけないのだと。そういえば私は恋愛からも逃げた。いつも大好きな友達ができれば、好きすぎるからこそいつも自分から距離をとって逃げた。いつも他人との距離を理性的に計算しきれず、制御もできない。だから今回は仕事と尊敬により、冷静に適切距離を保てそうな人たちに愛情や執着を分散させたネットワークを作ることにより自分の居場所を作ろうとしたのだけれど、それすら私には無理だった。私は侑河家に置いたままの自分の腕にログインすることは二度となかった。

## 光 20 歳

昨日成人した僕の家にはいまだに4本の腕がある。うち1本の腕には見覚えがあるのだけど、顔が思い出せない。だが誰の腕なのかは知っている。瀬川恵という現代美術家の腕だ。約25%、祖母的な分量の血縁と、僕をその胎で育て産んだ親だ。昨日最後のお金が彼女から振り込まれた、20歳の僕の誕生日に。子供のころの僕の不用意な一言のせいで、恵は僕のママをやめてしまった。僕のせいで彼女は子供と親友と家族を失ってしまい、今はロンドンで一人暮らしだそうだ。大人になってネットで恵の活躍を見ることがあるけど僕の中では家にあるこの腕こそが恵ママになってしまって、映像の恵と同じにならない。

「もう大人だからな……」もう彼女との繋がりがなくなったという感傷が彼女の腕をどこか見えない場所に片付ける頃合いだと告げた。腕を眺めていると、腕の根元肩のあたりの継ぎ目に目がいく。ふと最近授業で学んだローカルメモリのデータの吸い出し方法を思い出した。

「あった……！」恵ママの腕の最後のデータは僕が痲癩を起こす2日前の夜、残業中の作業場からログインしているものだった。腕を机に固定させ再生させると、手は空に向かって伸ばされ何かを握った。その拳は少し下がり色々な角度でせわしく動いている。何を彼女は握ったのだろうか？ 軽く握られた拳には3～4cmほどの空洞ができています。手首の内側がどこかを中心に、球状の何かがあるように動いている。もう一度最初から再生してみる。物を握った後、親指が下から上へスワイプするような動きをしている。スイッチを入れているのだろうか？ 携帯？ この腕は僕が6歳前後はどこに設置された？ キッチン？ ベッド？ 洗面所？ ログの時間は21時32分。この時間だと、子供の夕飯には遅すぎるのでキッチンではない。僕は大人が子供のために使う電気製品、6歳児が寝る前後に必要な物を考えた。彼女の腕はまた上方に伸ばされその後、手は開かれる。その仕草から、壁に物が返却されたのが分かる。開かれた手はすぐに下の場所に戻り何か球状の物を撫でる仕草を5往復ほどした後、その手はすこし下に移動し親指と人差し指でやさしく何かをつまんだ。

「あ」

その瞬間、恵の指で頬をつままれた記憶が蘇った。ドライヤーで僕の髪を乾かし、撫でて髪を整え、その後に僕のやわらかな頬を軽くつまんでから、人差

し指で頬をつつく。それはおやすみのキスのかわりにする仕草だ。

目の前の指も、最後の仕上げとばかりに、いたずらな仕草で何かをつつき、元の場所に戻った。ループ再生により腕はまた空に伸ばされ、壁にかけられていたであろうドライヤーを取り上げた。

僕はそこに子供のころの僕を見出した。髪を撫でる手が、頬をつまみ、つつく。

最近、僕は傷つきやすい人間が苦手になってしまったのだと自覚した。もしかしたら恵ママに似たのかもしれない。自分でもキモイと思うので誰にも言わないけど僕は残された恵ママの腕の動きを再生させて、毎晩ドライヤーで髪を乾かしてもらおう。もちろん頭の大きさが違うからちょっと変だけど、腕の設置位置を高めにしてあるし、Your Armに内蔵されているセンサが物にあたっても「動きの意図学習値」以上押さないで、僕の大人サイズの頭でも髪を乾かし撫でてもらうことはできるのだ。そのやわらかな手は最後に僕の大人になりヒゲがまばらに生え始めた可愛げのない薄い皮膚をつまみ、仕上げにつつく。たかが子供の痲癩に母をやめた恵ママを大人気ないと長いこと心の中で責めていたものの、この彼女の腕の動きには確かに僕に対する愛情の存在を感じられる。そしてこの腕が動く限りそれは再生され現存する。僕はこの腕があればそれでいい気もするのだ。

(2019年11月5日受付)

■長谷川愛 aih@akg.t.u-tokyo.ac.jp

現代美術家。テクノロジーと人がかかわる問題にコンセプトを置いた作品が多い。IAMAS, Royal College of Art, MIT Media Lab 卒。東京大学 特任研究員。http://aihasegawa.info